

「旧校舎の思い出」 片桐 八重子

私は昭和二十八年四月、昭和女子高等学校の普通科に入学しました。木造二階建ての校舎が二棟、平屋建て一棟、井戸もありました。後者の周りは秋になるとコスモスの花がたくさん咲いていました。校長室、応接室、職員室、調理実習室、和洋裁実習室、音楽室、寄宿舍、普通教室の七教室でした。一、二年生のときは二階の教室でしたが、二年生のときに新しい木造平屋建て校舎の基礎工事が始まりました。土台に石を並べその上を、エンヤコラシヨ、エンヤコラシヨと大声を出しながら縄を引き、地づきの手伝いをしました。そして出来上がった校舎に三年生になって入りました。講堂がなかったため、二部屋続きの教室をひとつにして、入学式と卒業式は行われました。

私は昭和31年3月卒業と同時に、事務職員として採用され、当時の教職員は、非常勤講師を含めて20名たらずでした。それに、冷暖房の設備等はなく、冬になると暖房は、校長室は火鉢、職員室はのこくずを燃やすストーブと四角い大きな火鉢でした。とても寒かったのを覚えています。その後、生徒数が増えるごとに、旧校舎は取り壊され、次々と新しい校舎が建っていききました。施設・設備ともに充実し、コースもいろいろ増え、学びよい環境で勉学に、スポーツに邁進できることが羨ましいほどでした。最後に母校がますます発展していくことを願っております。